

ちょうない

町内の 生き物に ついて

まちな自然を代表する在来種と

町内で確認されている外来種の

特徴や注意点を予習しましょう。

どうぶつ

しょくぶつ

動物や植物について

府中町には、私たちが生まれる何十年も前からそこにすみ続けている動物や植物がいます。このように、昔から地域にいる生き物は『在来種』と呼ばれ、反対にほかの地域や外国から持ち込まれた生き物は『外来種』と呼ばれます。

町内で確認されている約1,600種の動物や植物の中から、まちな自然を代表する在来種 30 種、町内で確認されている外来種 12 種を紹介します。この 30 種と 12 種を探してみよう！

在来種



もともと、その地域にすんでいる動物や植物のこと。この中でも、数が少なく、めずらしい生き物は『希少種』と呼ばれています。『希少種』が絶滅しないように守ることが大切です。

ゲンジボタルやミナミメダカが有名！

外来種



ほかの地域や外国から持ち込まれた、動物や植物のこと。人間への影響や、農作物への被害、在来種のすみ場所を奪うなどの影響があります。

アルゼンチンアリやオオクチバスが有名！

とくていがいらいせいぶつ

特定外来生物：在来種を食べたり、すみかを奪ったりする外来種で、法律によって、飼育や栽培、生きたままの移動などが禁じられ、防除の対象となっています。

ようちゅうい

要注意外来生物：法律で飼育や栽培などは禁じられていませんが、在来種に悪影響を与える可能性がある外来種です。